



ストリートスポーツから新たな賑わいとつながりを生み出す エアリススケートパーク太田 OPEN♪

群馬県 都市計画課 (取材協力 太田市 まちづくり推進課)

東京オリンピックから正式種目として採用され、近年益々注目を集めているストリートスポーツである「スケートボード」。先日行われたパリオリンピックでも日本代表選手が金メダル2個・銀メダル2個獲得し、国内のみならず世界中を熱狂させた若い世代の躍動は今なお記憶に新しいところでしょう。そんなオリンピック前夜の7月中旬に、群馬に新たに誕生したスポーツまちづくりの拠点である「エアリススケートパーク太田」をまっちゃん〜ずで取材させていただきました。

■ エアリススケートパーク太田とは？

エアリススケートパーク太田は、6月23日に太田市で開業した北関東最大級の3,000㎡規模のスケートボード場であり、スケートボード・BMX・インラインスケートなどのアーバンスポーツが楽しめる新たなスポットです。

名前の由来は、近隣に整備中の公共施設にちなんでおり、「風通しが良い」を意味する「エアリー」と、「空間」を指す「スペース」を組み合わせせた造語「エアリス」から来ています。

利用者登録を行い、1日券を購入して利用する施設ですが、なんと、OPEN記念のキャンペーンで9月30日(月)まで無料で利用できます。(太っ腹ですね！)



エアリススケートパーク太田 俯瞰写真

(ここからは、Q&A方式で紹介します。) ※以下、Qは、まっちゃん〜ず Aは、太田市まちづくり推進課

■ エアリススケートパーク太田 現地取材

Q：施設はどういったイメージで整備されたのですか？

A：施設の整備にあたり、関東近郊の先進事例はほとんど視察させていただきました。

そういった先行事例を参考としながら、地元愛好家の方々(現：太田市ストリートスポーツ協会の方々等)と協議を重ねてレイアウトが決定しました。公認の大会仕様でなく、幅広い方に楽しんでいただけるよう全体的に少し優しめのレイアウトとしています。

ただ、そのなかでも一部オリジナリティを残したいとの意見があったことから、目玉として「3mの高さのクォーター(壁)」を設置しています。なお、当施設は白を基調としたシンプルなデザインにしています。



6月23日 オープニングイベントの様子

Q：現在、オープンしてから約1ヶ月経過していますが、利用状況はいかがですか？

A：ありがたいことに、ほぼ毎日予約でいっぱいとなっています。利用者の方のうち最も多い年齢層は小学生となっています。当施設は4歳以上からご利用いただけますが、オリンピックをはじめ若い世代の方の活躍が裏付けられた印象です。また、その次に多い年齢層は40代後半から50代になっているので、その世代のお子様が一緒にはじめられているのではないかと感じています。なお、現時点で、想定以上の940人に利用登録していただいています。

営業は21時までですが、利用者数のピークは17時～19時頃となっています。



当日は、35度を超える暑い中でしたが、10数人のスケートボーダーが楽しんで利用していました。生で見ると、スピードを出してカベを滑っている様子は、迫力があり、見ているだけでも面白かったです!! (まっちゃん〜ずには到底マネできませんでした・・・)





「初心者向け」だけでなくオリジナリティも残そうという考えから、名物となる3mのクォーターが設置されています。左の写真を見てもらえば分かるように、人の倍の大きさのクォーターは迫力があり、現地で見ると正直怖いくらいでした。

練習していたボーダーの方々は、むしろその高さを楽しんでいる様でした。

※現地のイケてるボーダーの方に写真に協力いただきました。快くご協力いただきありがとうございました！

他にも、下写真のような、人よりも大きいアイテムが置いてあったり、練習できるアイテムがもりだくさん！



Q：何か、この施設の整備・運営について工夫したところはありませんか？

A：全国的に公共施設が縮小される傾向にあるなかで、「多くの愛好家の方の思いが沢山詰まっている当施設だけは、未永く運営していきたい」という強い思いからはじまりました。具体的には、整備に要する初期コストだけでなく、維持管理運営コストも含めたトータルコストをいかに抑えるかを意識しました。その一つとして、最も経費の係る人件費削減を目的とした「係員を常駐させない運営」にチャレンジしています。通常のパークでは導入されていない「予約」を取り入れたこともその一つです。利用者の方には大変お騒がせしておりますが、ご意見やご要望などを一つ一つ整理しながら、より利用しやすい施設となれるよう引き続き改善していきたいと考えています。

Q：ネーミングライツを活用せずに整備しているのも大きなポイントだと思うのですが、いかがですか？

A：特定の事業者のカラーを出すのではなく、あくまでもフラットな公共施設として位置づけたいという思いから、あえてネーミングライツは採用していません。

一方で、何か収益を生み出す方法はないか検討したなかで、当施設の法面やフェンスを活用した広告スポンサーを募集することとしました。その結果、想定以上に多くの事業者の方にスポンサーとして入っていただき、年間200万円程度の広告収入を得ています。現在設けている19枠は全て埋まっています。本当に感謝しかありません。

Q：安全管理のポイントはどのようにですか？

A：運営側としては、例えばヘルメット等の防具着用をお願いしたり、未就学児の方が利用される際に18歳以上の方の付添(入場)をお願いしていますが、どうしても、全てのプレーは原則自己責任となることにご承諾をいただいております。そのなかでも、行政としてできることとして、もしもの時に119通報を促す看板を掲示したり、AEDを設置しています。また、何かトラブルが発生した際の状況が確認できる防犯カメラや施設外で観覧されている方が緊急時のみ入場できる扉を設置しています。

■ 最後に

太田市の熱意のある担当者様が色々な角度から試行錯誤して、現在の施設が作り上げられたのがよくわかった取材でした。施設は老若男女問わず利用されており、太田市における新たな賑わいを生み出すスポットが誕生したのを肌で感じました。そう遠くない未来に、新たな日本代表がこの太田から誕生する日が来るかもしれません。

取材に快くご協力いただいた太田市まちづくり推進課の今泉様、また、当日協力してくれたボーダーの皆さん本当にありがとうございました！！

